

アルペンスキー

1. 適用するルール

スペシャルオリンピックス(SO)のアルペンスキー公式スポーツルールは、全てのスペシャルオリンピックスアルペンスキー競技において適用される。国際的なスポーツ組織として、スペシャルオリンピックスは国際スキー連盟(FIS)のアルペンスキールール(参照:<http://www.fis-ski.com/uk/>)を基に、スペシャルオリンピックス公式スポーツルールを定めた。スペシャルオリンピックスのアルペンスキー公式スポーツルールおよびスポーツルール第 I 章 総則と矛盾する場合以外は FIS および全日本スキー連盟(SAJ)のルールが採用される。矛盾する場合は、スペシャルオリンピックスのアルペンスキー公式スポーツルールが適用される。

参考:スペシャルオリンピックス スポーツルール第 I 章 総則

http://www.son.or.jp/docs/pdf/rule/general_rules.pdf

行動規範、トレーニング基準、医療および安全面の必要条件、ディビジョニング、表彰、上位レベルの競技会への進出条件とユニファイドスポーツを参照してください。

2. 公式種目

2.1 これらの種目は、あらゆる能力のアスリートに競技する機会を提供することを目的としている。各国プログラムは提供する種目、および必要に応じて、それら種目の運営方針を決定することができる。コーチは、それぞれのアスリートの技術と興味に応じて、適切なトレーニングの提供と種目を選択することに責任がある。

以下はスペシャルオリンピックスにおける公式種目の一覧である。

- 2.1.1 10m 歩行
- 2.1.2 グライド
- 2.1.3 スーパーグライド
- 2.1.4 初級スーパーG
- 2.1.5 初級ジャイアントスラローム
- 2.1.6 初級スラローム
- 2.1.7 中級スーパーG
- 2.1.8 中級ジャイアントスラローム
- 2.1.9 中級スラローム
- 2.1.10 上級スーパーG
- 2.1.11 上級ジャイアントスラローム
- 2.1.12 上級スラローム

3. 競技設備

3.1 斜面

3.1.1 斜面は、長さ、幅、それに難度において、スキーヤーの能力にあったものでなければならない。全ての競技と練習用の施設は安全でなければならない。

3.2 リフト

3.2.1 可能な限り競技場や練習会場まで直接、または近くまでリフトが利用できるようにする。

3.3 ゴールエリア(フィニッシュエリア)

3.3.1 全てのアルペンスキー競技のゴールエリアは、競技者が安全に停止できるだけの十分な広さがなくてはならない。

3.3.2 可能な限り、全てのゴールエリアは観客が中に入れないようにフェンスを設置しなくてはならない。(セクション 3.6 の図を参照)

3.4 スキー場

3.4.1 スキー場ではスキーパトロールが競技におけるあらゆる医療上の必要性と処置を監視できるようにしておく。

3.4.2 医療ボランティアが参加する場合は、医療処置が上手く行われるようにスキー場について前もって十分に知ってもらうようにする。ほとんどのスキー場において、このことはスキー場の責任となる。

3.5 暖をとる施設

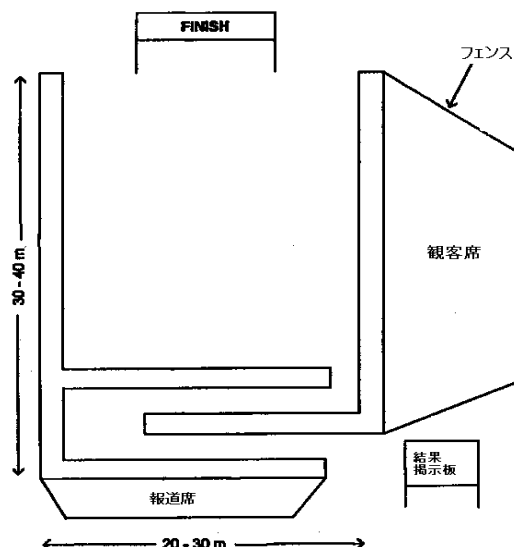
3.5.1 暖をとる施設は斜面と駐車場から行きやすくなくてはならない。

3.5.2 この施設は悪天候の場合にスペシャルオリンピックス関係者一同を収容するだけの広さがなくてはならない。

3.5.3 ボランティアの登録はこの施設内にて行う。

3.5.4 表彰式は、悪天候の場合のみ施設内にて行う。

3.6 フィニッシュ スタジアム図



3.7 駐車場

3.7.1 駐車場は、競技のボランティア、スペシャルオリンピックスのスタッフ、コーチとアスリートを収容する為に十分なだけの広さがなくてはならない。また、緊急用の車両が入れるようにしておかなければならない。

3.8 補助設備

- 3.8.1 スキーの保管室
- 3.8.2 スキーの準備室
- 3.8.3 スペシャルオリンピックスの用具の保管室
- 3.8.4 スキーレンタル
- 3.8.5 コーチ用の会議室
- 3.8.6 以下のための屋根のある施設
 - 3.8.6.1 審判団の会議室
 - 3.8.6.2 競技の計時と計算
 - 3.8.6.3 スタートエリア

4. 用具

4.1 ヘルメット

4.1.1 競技会および公式練習において、全ての前走者と競技参加者は FIS の要項を満たすヘルメットを着用しなければならない。柔らかい耳当てはスラロームに使われるヘルメットの場合のみ許可される。全てのヘルメットはタグをつけていなければならない、タグのついていない競技者は競技を行うことができない。(FIS ルール番号 707)

4.2 スキー

- 4.2.1 ビギナーと初級のアルペンスキーのアスリートは100cm以上のスキーを使用してもよい。
- 4.2.2 アルペンスキーのアスリートは競技において身体的障害に対応するために130cm以下のスキー(例:アウトリガー)を使用してもよい。
- 4.2.3 ジュリー(審判団)は短めのスキーの使用について、更に考慮する権利がある。
- 4.2.4 座位のスキーヤー: 固定されたアウトリガー付きのバイスキーを使用するアスリートは、補助者と共に滑らなければいけない。アスリートは、もし彼らの補助者が最初と最後のゲート以外でバケットシートを持った場合失格となる。その他の身体障害のあるスキーヤーは国際パラリンピック委員会(IPC) <http://www.ipc-alpineskiing.org> における座位、視覚障害、立位それぞれの競技者(スキーヤー)のルールに従って、競技を行う。これらのアスリートは、スペシャルオリンピックスのアルペンスキルールに基づいてディビジョニングされる。

4.3 スキー場を維持する道具

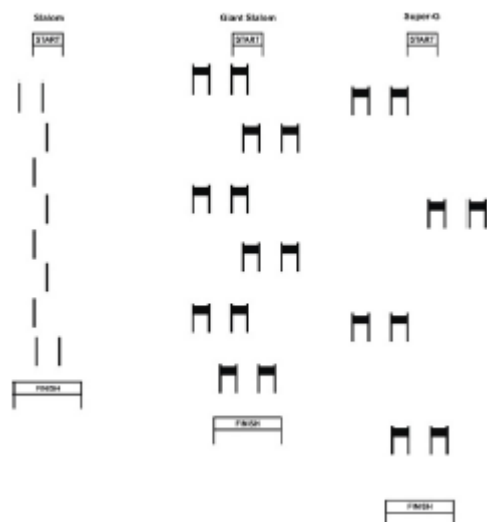
- 4.3.1 スキー場では全ての種目に対して十分に斜面を整備し、設備の準備をしなくてはならない。
- 4.3.2 雪の状態が悪い時はコースを維持するための道具(レーキ、シャベル、雪を固めるための化学薬品)が使われる。また、これらの道具はスキー場に備えておく。

4.4 ゲートとポール

- 4.4.1 1本のスラロームポール、ターニングポールは、スラロームのゲート(FIS ルール番号 804/804.1/804.2/804.3 参照)を作るのに使用する。
- 4.4.2 シングルポールスラロームでは、最初と最後のゲート以外にはアウトポールは設置しない。
- 4.4.3 ジャイアントスラロームとスーパーG では、ポール間にパネルの付いた2本のポールを1セットとし、2セットで1つのゲートを作る。
- 4.4.4 ジャイアントスラローム用では、ターニングポールとアウトポールの間距離は4~8mとする。スーパーG用では、距離を8m以上にする。
- 4.4.5 ジャイアントスラロームとスーパーG にはパネルが使われる。
- 4.4.6 スタート地点後の第1ゲート(あるいはそれ以上のゲート)は常に赤色でなくてはならない。

4.5 コースレイアウトと用具

4.5.1 コースレイアウト図(より大きな図は付録を参照のこと)



4.5.2 コースセッターが雪の中にポールを立てるためのドリルやバールを用意しておく。

4.5.3 スタートとフィニッシュエリアは十分に保護されていないとしない。柵またはポップ柵が使われる。

4.5.4 安全上の理由で、可能な限りコースには柵をして、一般のスキーヤーとは独立した競技設備だと分かるようにしておく。その他の柵、防雪柵、および保護用のパッドはスキー場の責任とする。

4.5.5 安全のためにマーキングを使うこともできる。

4.5.6 スタートとフィニッシュには旗を使う。

4.5.7 可能な限り、バックアップ装置のついた電気計時器を使う。これが出来ない時は、手動操作機器で計時して構わない。旗門審判員は1分間ルールのための1分間計時に責任を持つ。(1分間ルール セクション 6.5.2 を参照)

4.6 場内放送

4.6.1 次のような内容の放送をする。

4.6.1.1 開催中の競技と結果のアナウンス

4.6.1.2 競技種目の実況アナウンス

4.7 インフォメーションの掲示

4.7.1 スタート順の掲示:アスリートのスタート順、ビブナンバー、他のインフォメーションをスタート地点に掲示する。

4.7.2 結果(タイム)の掲示:フィニッシュエリアの後方に、アスリートの名前、スタート順、ビブナンバーを表にして、結果(タイム)を掲示する。

4.7.3 一般インフォメーションの掲示:一般インフォメーションと告知は、競技施設、表彰場、

および宿舎のなるべく近くに掲示する。

4.8 スキー用具修理道具

4.8.1 競技中のスキー装具の修理道具は、公認のメンテナンス担当者によって使用される。

4.9 通信手段

4.9.1 競技会場、医療従事者、ボランティアの調整者、そして競技役員間の情報伝達システムが適切でなければならない。競技会場はその他の通信手段を持っても良い。

4.10 レーススタッフ

4.10.1 場合によっては競技や種目の役員をはっきりさせることが有効であり、また必要でもある。大会本部は腕章やウインドブレーカーを支給するとよい。

5. 役員

アルペンジュリー(審判団)

- a. 主審
- b. 競技委員長
- c. コース係長
- d. スタート審判
- e. フィニッシュ審判
- f. 副審

役員－審判員以外の役員

- a. 旗門審判係長
- b. 計時計算係長
- c. レースセクレタリー
- d. 医療係長
- e. インフォメーション責任者
- f. 器材係長
- g. コースセッター
- h. コースセッターアシスタント

ボランティア要員

- a. 旗門員
- b. 前走者
- c. コース進行係:世話役
- d. コース係
- e. 計時計算係

- f. 医療／スキーパトロール
- g. 走者
- h. スタートとフィニッシュのアシスタント
- i. アナウンサー

6. 競技ルール

6.1 一般的なルールと修正

6.1.1 FIS ルールによって、スペシャルオリンピックスのアスリートおよび競技指導者は、世界規模で標準化されたスキー競技を行うことができる。しかし、FIS のルールはかなり高度な技術を獲得している競技者のみが参加するような競技会を執り行うために書かれていることを忘れてはならない。スペシャルオリンピックスのアルペンスキーのアスリートにおいて、そのように高度な技術を獲得しているものの数は極めて少ない。それゆえ、全てのスペシャルオリンピックスアスリートの能力にあったアルペンスキーコースを設定することが適切である。FIS の規定(ゲートの数、クローズゲート(垂直に並ぶゲート)、高低差)は競技能力の低いアスリートにとってはあまりにも陰しくて長すぎる地形にコースを設定している。スペシャルオリンピックスのアルペンスキーコースは、我々のアスリートに合わせて FIS のルールを修正している。ただし、コース設定の規則、すなわちゲートの数、ターニングポール間の距離、スタートとフィニッシュエリアに必要なものは、主として FIS ルールと同じである。スペシャルオリンピックス冬季競技の公式ルールに記載されているように、特定の修正ルールは FIS の規則と置き換えられる。

6.1.2 初級レベルの種目に参加する為に必要な技術をマスターしていないアスリートは、10m 歩行、グライド、スーパーグライドの種目に参加する。

6.2 デイビジョニング

6.2.1 コーチはスペシャルオリンピックス冬季競技の公式ルールの第 1 章の中にある、デイビジョニングと年齢別グループの項を確認しておく。

6.2.2 ビギナーのスキーヤーは申し込みをした種目でデイビジョニングされる。

6.2.3 初級、中級、上級のスキーヤーは能力に応じたレベルで修正したジャイアントスラロームのコースで 2 回試技を行い、早い方のタイムを競技するデイビジョニングのために使う。競技開催側のスケジュールが許す限り、デイビジョニングのタイムトライアルは種目ごとに行われる。それぞれのクラスでの滑走は、試走のタイムが一番早かったものからスタートし、一番遅かったものが最後となる。

6.3 コースセッティング

6.3.1 競技能力の低い種目(10m 歩行、グライド)におけるコースは、同じ色のゲートを使う。

6.3.2 スーパーグライドには青色と赤色のゲートを交互に使う。

6.4 スタート地点

6.4.1 全てのスタート地点は、アスリートがリラックスした姿勢で待機できるように平坦にしておくこと。

6.4.2 この地点に楽に行くことができるようにすると共に、一般のスキーマーの流れからこの地点を守るように配慮する。

6.5 特別ルール

6.5.1 競技の間に競技者が旗門線から外れた場合（転倒、旗門不通過、スキーが外れる等）、競技者はコースに戻るために、コースアウトした時点より設定された時間の猶予が与えられる。

6.5.2 その時間以内にコースに戻れなかった場合や何らかの援助を受けた競技者は失格となる。初級者、中級者、上級者の制限時間は1分間とする。失格は違反が起こった場所に一番近いゲートに配置された旗門員の旗門通過表によって決定される。旗門員は責任を持って上記の時間を計る。

6.6 スタートの合図

6.6.1 スペシャルオリンピックスのアルペンスキー種目の全てのレベルにおいて、スタートの合図は次のようにする。「5・4・3・2・1・GO」

6.6.2 計時はアスリートの前足のブーツがスタートラインを越えた時もしくは、電気計時標識が動き出した時から始まる。

6.7 旗門線

6.7.1 スーパーGとジャイアントスラロームにおいて、間にパネルのついた2本のポール2セットからなっているゲートで、雪面上のターニングポールとアウトポールを結ぶ最短のラインが旗門線である。

6.7.2 スラロームにおいては雪面での回転側のポールと外側のポールを結ぶ最短のラインが旗門線である。

6.8 正しい通過

6.8.1 競技者のスキーの両先端と両足が旗門線を横切った時に、ゲートを正しく通過したものととする。

6.8.2 もし競技者が過失なしに（スラロームポールを踏まずに）片方のスキーを失った場合、残っている片方のスキーの先端と両足が旗門線を越さねばならない。

6.8.3 スタートとフィニッシュラインについても旗門線と同様とする。

6.8.4 競技者が自分のスキーの最先端と両足が旗門線を越える前にポールを垂直の位置か

ら動かした場合は、スキーの両端と両足は元の旗門線(雪に印をつける)を越さなければならない。

6.9 種目の修正

6.9.1 スラローム・ジャイアントスラローム

6.9.1.1 スラロームとジャイアントスラロームのレースは、2 回の計時滑走からなる。それぞれ 2 回のタイムを合計した結果が表彰の対象になる。

6.9.1.2 ジュリー(審判団)の判断により、2 回目の滑走時にはコースのセット替えが行われる。

6.9.1.3 スラロームとジャイアントスラローム種目において、アスリートの1回目の滑走のタイムがそのディビジョンでの 2 回目の滑走のスタート順を決める。各ディビジョンの1回目の滑走で遅かったものが最初にスタートし、一番速かったものが最後にスタートする。失格者も 2 回目の滑走をしても良いが、その場合はそのディビジョンの最後に滑走する。

6.9.2 スーパーG

6.9.2.1 技開催側は競技するアスリートの能力に合わせてスーパーG 競技の難易度を変更しても良い。

6.9.2.2 全てのアスリートは競技の前に一度だけ同じコースを練習のために試走しなければならない。

6.9.2.3 競技開催側は試走タイムを計時しても良いが、これは競技のスタート順には影響しない。

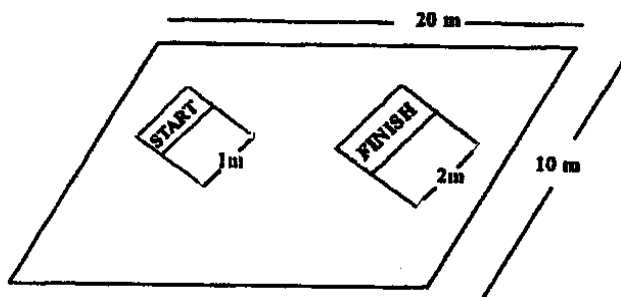
6.9.2.4 スーパーG の滑走(計時)は1回である。

7. 競技レベル

7.1 ビギナーのアルペンスキーの種目

7.1.1 10m 歩行

7.1.1.1 図



7.1.1.2 準備

7.1.1.2.1 この種目のために横 20m、縦 10m の平坦な場所を用意する。

7.1.1.2.2 本部と登録場所になるべく近い場所にしたい方がよい。

7.1.1.2.3 1m 間隔で 2 本のポールを立て、その間の雪上にスタートラインを引く(色をつける)。

7.1.1.2.4 スタートから 10m 離れた所に 2m 離して 2 本のポールを立て、その間の雪上にフィニッシュラインを引く。

7.1.1.3 レースの進行

7.1.1.3.1 アスリートはスタート地点で両方のブーツの前方がスタートライン上にくるように立つ。アスリートはスキーのストックを持って持たなくてもよい。

7.1.1.3.2 アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。

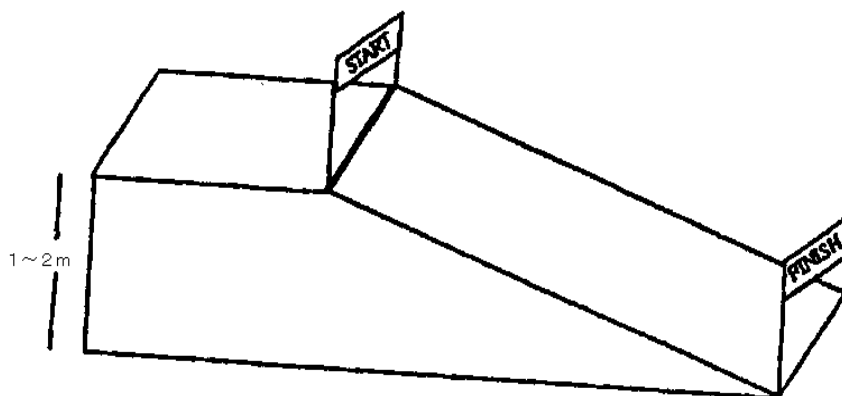
7.1.1.3.3 アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切ったら計時を始める。

7.1.1.3.4 アスリートはスタートからフィニッシュへ歩いていく。

7.1.1.3.5 アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

7.1.2 グライド種目

7.1.2.1 図



7.1.2.2 斜面の設定(初心者用の斜面は本部に近いところにする)

7.1.2.2.1 斜面の高低差は 1~2m にする。

7.1.2.2.2 斜面の全長は 10~15m にする。

7.1.2.2.3 斜面はなだらかでフィニッシュ地点は平坦になるようにする。

7.1.2.2.4 スタート地点は平坦にし、平坦な部分が斜面にかかる点にスタートラインを引く。

7.1.2.2.5 スタートラインを挟んで 1m の間隔に 2 本のポールを立てたものをスタートゲートとする。

7.1.2.2.6 フィニッシュラインを挟んで 4m の間隔に 2 本のポールを立てたものをフィニッシュゲートとする。なるべくフィニッシュ用の旗を使用すること。

7.1.2.3 レースの進行

7.1.2.3.1 アスリートはスタート地点で両方のブーツの先端がスタートラインにくるように立つ。アスリートはスキーのストックを持っても持たなくても良い。

7.1.2.3.2 アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。もしアスリートが上手くスタートできないときは、スタート審判はアスリートが前方に動き出せるように援助してもよい。

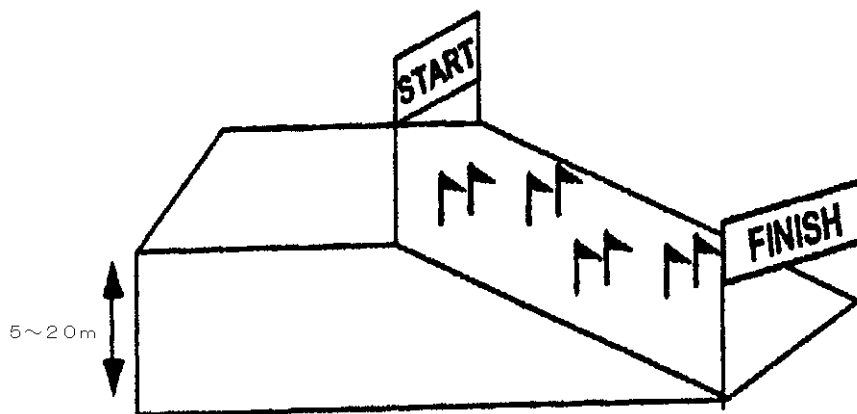
7.1.2.3.3 アスリートの前足のブーツがスタートラインを越えるときに計時は開始する。

7.1.2.3.4 アスリートはスタートからフィニッシュまで滑る。

7.1.2.3.5 アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを越えるときに計時は終了する。

7.1.3 スーパーグライド

7.1.3.1 図



7.1.3.2 斜面の設定(初心者用の斜面は本部近くにする)

7.1.3.2.1 斜面の高低差は5~20mとする。

7.1.3.2.2 コースの幅は最低25mとする。

7.1.3.2.3 コースの全長は50~100mとする。

7.1.3.2.4 滑走面はなだらかで凸凹や逆斜面がないようにする。

7.1.3.2.5 コースの全面をリズムカルに連続してプルークボーゲンできるように4~6のゲートを設定する。

7.1.3.2.6 スタート地点は平坦にし、平坦な場所が斜面にかかる点にスタートラインを引くか計時バーを設置する。スタートラインの幅は1m以内とする。

7.1.3.2.7 フィニッシュ地点は少なくとも幅4mにし、アスリートが平坦な場所に入ってもらえるようにする。

7.1.3.3 レースの進行

7.1.3.3.1 アスリートは「5・4・3・2・1・GO」の合図でスタートを切る。

7.1.3.3.2 アスリートの前足のブーツがスタートラインを横切るかアスリートの足が計時バーを作動させた時に計時を始める。

7.1.3.3.3 アスリートの前足のブーツがフィニッシュラインを横切ったら計時を終える。

7.2 初級種目

初級者用のコース設計					
	種目	ゲートの数	高低差	コースの幅	クラス
7.2.1	スラローム	5～15	15～50m	30m	初級者
7.2.2	ジャイアントスラローム	5～15	20～70m	30m	初級者
7.2.3	スーパーG	5～12	25～70m	30m	初級者

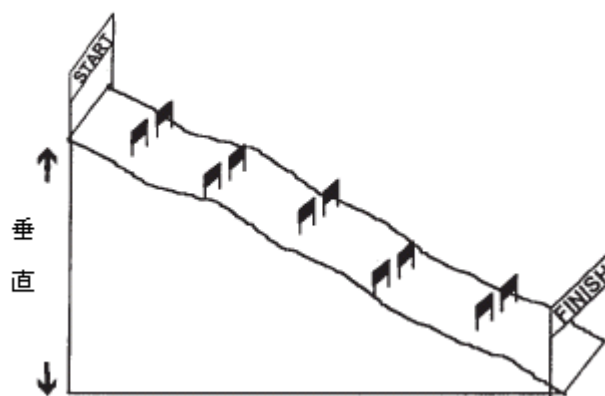
7.3 中級種目

中級者用のコース設計					
	種目	ゲートの数	高低差	コースの幅	クラス
7.3.1	スラローム	15～30	30～100m	30m	初/中級者
7.3.2	ジャイアントスラローム	15～30	50～150m	30m	初/中級者
7.3.3	スーパーG	10～20	50～200m	30m	初/中級者

7.4 上級種目

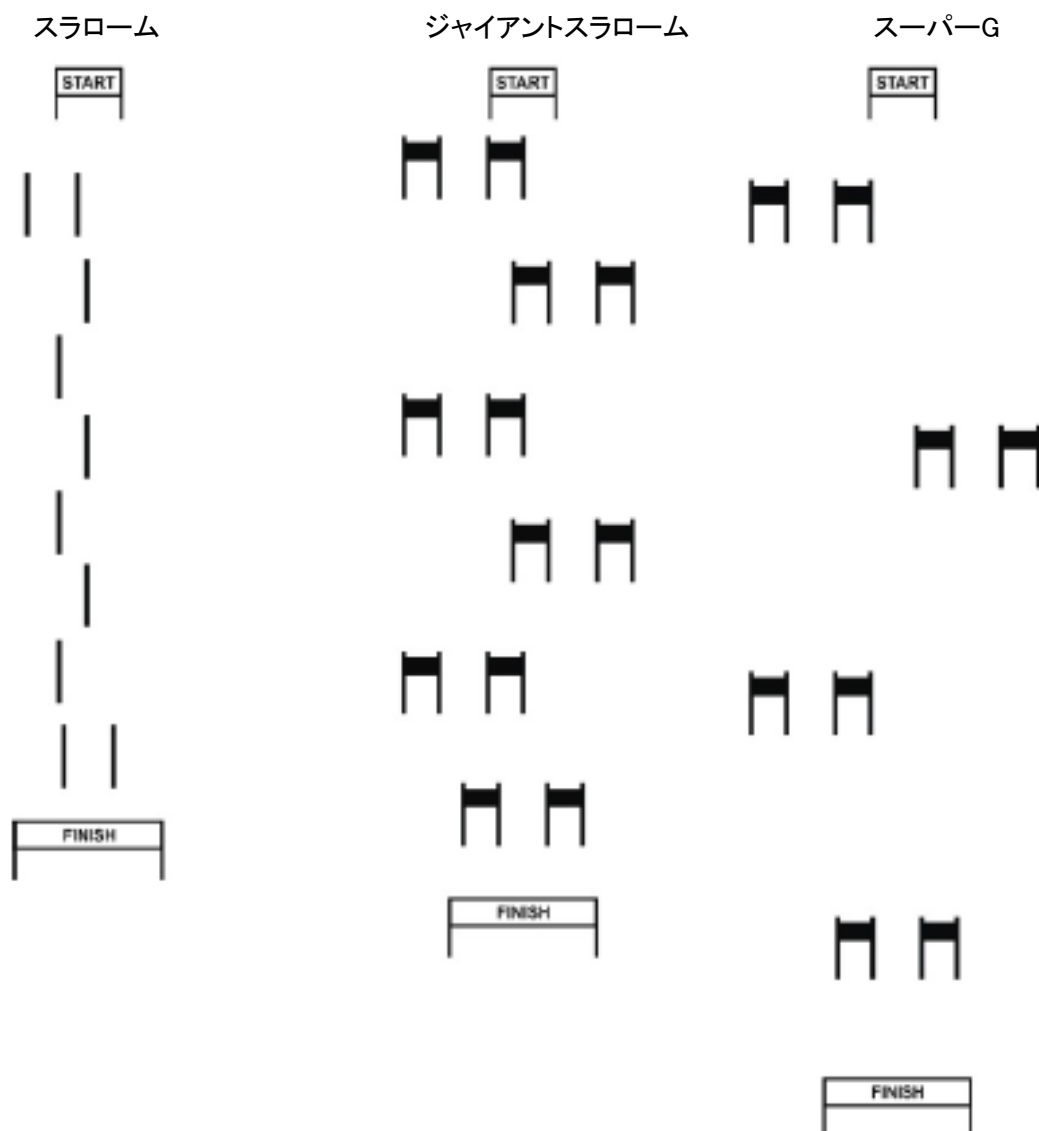
上級者用のコース設計					
	種目	ゲートの数	高低差	コースの幅	クラス
7.4.1	スラローム	20～45	60～200m	30m	上級者
7.4.2	ジャイアントスラローム	20～40	100～300m	30m	上級者
7.4.3	スーパーG	15～35	150～350m	30m	上級者

垂直斜面図



8. 付録

コースレイアウト



<スペシャルオリンピックのスポーツプログラムを実施するに当たっての留意点>

スペシャルオリンピックの正式なスポーツプログラムとして活動する場合には、事前に最寄りの地区組織事務局、またはスペシャルオリンピック日本事務局にご連絡ください。